OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	関西における中国人留学生の方言使用 : 語彙の使用に注目して
Author(s)	殷, 琦
Citation	阪大日本語研究. 2025, 37, p. 51-73
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101120
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大日本語研究』37（2025）

関西における中国人留学生の方言使用
―語彙の使用に注目して―

Kansai dialect use among Chinese international students in the Kansai region: Focusing on vocabulary use

殷　琦
YIN,Qi

キーワード：方言語彙、方言習得、方言意識、スタイル、関西方言、標準語

要旨

本稿は関西地域に在住している中国人留学生５名を対象に、談話調査と面接調査の手法を用いて、彼らの方言語彙の使用を調査・分析したものである。その結果、次の３点を指摘した。(1) 全体的に中国人留学生が使用する方言語彙は「メッチャ」、「アカン」、「ホンマ」、「エエ」、「オル」、「ヨー」、「オモロイ」、「シンドイ」、「チャウ」、「ギョーサン」が挙げられる。特に「メッチャ」は関西方言を起源としながら全国に広がった俗語的な形式であるためもっとも多い使用者数と使用回数で使用されている。(2) 留学生の方言語彙の使用には、関西方言と認識した上での使用と、認識せずの使用という２パターンが存在する。関西方言と認識した上で使用する場合、その使用に影響を及ぼす要因として、自身と大阪とのつながりを表現する手段としての使用、関西という土地に対するプラスの評価、標準語では表現できない意味を表すための使用が挙げられる。(3) 留学生の方言使用は包括的なスタイルとしてではなく、カジュアルスタイルにおいて部分的に方言要素を取り入れる形である。

1. はじめに

本稿は関西地域に在住している中国人留学生の方言語彙の使用実態と使用の要因を分析したものである。方言中心社会（田原 2006）である関西の人々は初対面の外国人に対しても関西方言を使用している（ロング 1991）。このような背景から、関西に滞在する留学生は頻繁に方言に触れる環境で生活しており、このことが、留学生自身の日本語使用にも影響を与えているのではないかと考えられる。

本稿では、関西地域に留学している中国人留学生を対象に、彼らの方言語彙の使用の実態と要因を明らかにすることを目的とする。そうすることで、日本語学習者の日本語のバリエーションの習得と使用に関する研究に知見を提供することを目指す。

以下、本稿の構成は次のとおりである。まず２節において、本稿の主題と関わる先行研究を整理した上で、問題のありかとリサーチクエスチョンを提示する。続いて３節で調査概要、4

節で分析の方法について述べた後に、5 節で、自身にとっての「方言場面（自分が関西方言を話していると考える場面、以下同じ）」において、中国人留学生がどのような方言語彙を使用しているのか、またその方言語彙の使用にどのような特徴が見られるのかについて、全体的な分析を行う。6 節では留学生の方言語彙使用の要因についてインフォーマントごとに分析を行う。7 節では、5 節と 6 節の分析結果を踏まえて、中国人留学生の「方言使用」はどのように捉えることができるかについて考察を行う。最後に 8 節で本稿の内容をまとめ、今後の課題を述べる。

2. 先行研究と本研究の課題

本節では、本研究に直接関係のある、方言の認知、方言の使用意図、日本語学習者の方言使用の、3 つの分野で行われてきた先行研究をまとめる。具体的には、まず、2.1 節で関西方言の語彙に対する認知度について指摘がある研究を述べる。次に 2.2 節で現代における方言使用の意図の変化について言及がある研究をまとめる。続いて、2.3 節で日本語学習者の方言使用について指摘がある研究を整理する。最後に、2.1 ～ 2.3 節をまとめた上で、2.4 節でこれまでの研究から示される問題のありか及び本研究で解決する課題を述べる。

2.1. 関西方言の語彙に対する認知度

上林（2020）は関西若年層のカジュアル談話におけるスタイル切換えを分析するために、関西出身若年層 3 名を対象に、関西方言の語彙と文法項目について、それと対になる標準語や東京方言由来の非方言項目を選定して分析項目とし、分析を行った。その中で、関西出身若年層 3 名全員に使用されている関西方言の語彙は、「メッチャ」、「アカン」、「ホンマ」、「エエ」、「オル」、「ヨー」、「チャウ」の 7 つである。また、「メッチャ」に関しては、現在、首都圏においても俗語的な表現として浸透しつつあり、かつ、その浸透率が高いことを述べた。

殷（2023）は、関西に留学している 28 名の中国人留学生を対象にアンケート調査を実施し、彼らの知っている関西方言、またその関西方言の意味に対する理解度について調査している。その結果、認知度（関西方言であると知られている度合い）の高い語、「アカン」、「オオキニ」、「ホンマ」、「チャウ」、「ナンボ」などが挙げられた。また、理解度（該当する関西方言の正確な意味を理解する度合い）の低いものには、「ヤン」、「ネン」、「ヤ」などがあると指摘している。

2.2. 現代における方言使用の意図の変化

小林（2004）は若者たちの間では、骨組みは標準語（小林の用語では「共通語」）で、ほんのすこし感情系の言語要素の方言を交えた会話が成り立っているのが現実であると指摘してい

る。現代の方言は標準語にちりばめられる心理的要素になってきて、アクセサリー化しているとされている。また、田中（2011：10）によると、「方言」の「アクセサリー化」は東日本の都市部を中心に観察される現象で、西日本とりわけ近畿・九州などでは都市部においても包括的なスタイルとしての「方言」が主流であるという。

また、田中（2011：10）は方言の「おもちゃ化」現象について論じた。「方言おもちゃ化」とは、方言を目新しいもの、おもしろいもの、価値あるものとして、それが生育地方言であるか否かを問わず、表現のバリエーションを広げたり、楽しんだりすることを主目的に採用・鑑賞するという「方言」の受容態度と言語生活における運用態度のことであるという。

2.3. 日本語学習者の方言使用

渋谷（1992）によると、標準語に加えて方言を習得するということは、同じことを言うための言い方のセットを身につけるということである。また、それは同時に、複数のコードを切換える社会言語能力が要求されると述べている。つまり、渋谷（1992）は日本語学習者の方言習得をもう一つの日本語コードの習得と位置付け、標準語コードと方言コードがスタイルとして使い分けられるとして整理されている。

それに対して、これまでの日本語学習者による方言使用を取り上げた研究（ナカミズ 1996、樋下 2002、チュー 2021）では、主にカジュアルスタイルにおいて方言形式が現れることが指摘されるにとどまり、方言コードがスタイルとして使われているとまでは論じられていない。

ナカミズ（1996）は、日本在住ブラジル人労働者の日本語使用を調査した際に、その日本語使用に方言が混在しており、方言と丁寧体の使用を交えていたことを報告した。

樋下（2002）は、ある中国語母語話者の異なる場面でのスタイル切換えを調査した際に談話データに関西方言の使用も見られたと指摘した。特に、親しい非母語話者との対話場面において方言形式がもっとも多く用いられているのは、方言形式が親しい友人との間で使用するものだと認識されているためと考えられ、話者が場面によってスタイルを切換えていることを裏付けるものとされている。しかし、樋下（2002）で観察された中国語母語話者の方言使用は、限られた形式（例えば「ゆうたら」、「や」、「ちゃう」）にとどまり、さらに、方言形式がもっとも多く用いられた親しい非母語話者との対話場面においても、方言形式と対応する標準語形式が併用されている様子が確認されている。これらの点は、渋谷（1992）が指摘している日本語学習者が標準語コードと方言コードを切換えるということとは異なりがあると考えられる。

また、チュー（2021）は、日本におけるシンガポール人留学生の多言語混用について調査を行い、友人との会話に関西方言の使用も観察されたと報告している。

2.4. 問題のありかとリサーチクエスチョン

日本語教育においても、方言が日本語のバリエーションの一つとして重要視されつつありながらも、日本語学習者の方言使用に関する実態調査は十分に行われていないのが現状である。殷（2023）は留学生の関西方言に対する認識や理解状況を調査したものの、留学生が実際の会話においてそれらの語を使用するかどうか、あるいは自身にとっての「方言場面」において具体的にどのような方言を使用しているのかについて明らかにしてはいない。これまでの日本語学習者の方言使用に言及した研究（ナカミズ 1996、樋下 2002、チュー 2021 など）でも、主に日本語学習者の言語使用と関わる他の事象に焦点を当てる中で、カジュアルスタイルにおいて方言形式が現れるという指摘にとどまっている。

渋谷（1992）は地域社会で生活する日本語学習者の方言の習得をもう一つの日本語コードの習得と捉えており、標準語コードと方言コードが、スタイルとして使い分けられると主張している。一方、現代日本における方言使用の意図や形態は地域によって異なるが、方言の「アクセサリー化」（小林 2004）や「おもちゃ化」（田中 2011：10）のように、方言が包括的なスタイルとしてではなく、断片的・装飾的に用いられる傾向が進行している。このような現象は方言主流社会とされている関西地域の方言母語話者においては考えにくいが、関西地域に滞在する外国人留学生を含む関西方言非母語話者の方言使用はどのように捉えることができるのかが未解明である。

このような背景から、日本語学習者の方言使用はどのような様相を示しているのか、またどのような特徴を持つのかを明らかにすることが求められる。具体的には、学習者がカジュアルスタイルとして方言を使用しているのか、あるいは、単に習得した方言形式を適宜に挿入するような使い方をしているのか、それとも他の使い方があるのかといった点を探る必要がある。また、方言使用の実態に加え、使用に伴う意識や要因も明らかにすることで、地域に滞在する外国人にとって方言がどのような役割を果たしているのかについての理解が深まり、多言語多文化共生の地域社会の構築に対しても知見が提供できると考えられる。

そこで、本研究では上記の問題点を踏まえ、留学生による方言語彙の使用に焦点を当て、以下の 3 点をリサーチクエスチョンと設定する。

a) 中国人留学生は自身にとっての「方言場面」において、どのような方言語彙を使用しているのか。

b) 中国人留学生がカジュアルスタイルにおいて方言語彙を使用するのは、どのような理由によるのか。

c) 中国人留学生の「方言使用」はどのように捉えることができるか。具体的には、中国人留学生の使用する「関西方言」は、①インフォーマルなスタイルの一つなのか、それとも、

②一つのインフォーマルなスタイルの中にいくつかの単語や表現を取り入れる「方言のおもちゃ化現象」に似た使い方なのか。

本稿は、これらのリサーチクエスチョンに答えるために、3 節で述べられている調査を実施し、留学生の方言語彙の使用状況に焦点を当てて調査と分析を行った。なお、本稿で語彙に注目した理由は 4 節の「分析の観点」で詳しく述べる。リサーチクエスチョン a）は 5 節、b）は 6 節、c）については 7 節で扱う。

3. 調査の概要

本節では調査の概要について述べる。本稿では、中国人留学生が実際に使用している方言語彙の内実を調査するために、談話調査を採用した。また、方言語彙の使用意識を尋ねるために、談話調査のあと、同じインフォーマントに対して面接調査も実施した。

以下まず 3.1 節でインフォーマント情報を述べ、次に 3.2 節で談話情報を述べる。

3.1. インフォーマント情報

本節では、インフォーマント情報を提示する。インフォーマントは関西地域に在住しており、インフォーマントの内省や筆者の観察で関西方言を使用している中国人留学生 5 名である。5 名のインフォーマントは全て大学院生であり、日本に留学する前、もしくは留学直後に日本語能力試験 N1 に合格している。以下表 1 に、インフォーマントの情報を示す。留学生の方言使用に影響を与えそうな要素である、関西での滞在期間、日本語学習歴（学習形態）、母国での方言使用の有無などの情報も合わせて提示しておく。話者 ID の中の F は女性、M は男性を示す。インフォーマントの並び順は関西での滞在期間の長さに従ったものである。

表 1　インフォーマント情報

話者 ID	年齢	専攻	関西の滞在期間 [1)]	日本語学習歴（学習形態）	母国での方言使用
F1	20代	語学系	5 年 2 か月	9 年 10 か月（大学日本語専攻）	有
F2	20代	語学系	3 年 8 か月	4 年 8 か月（独学）	有
F3	20代	医学系	2 年 8 か月	6 年 3 か月（家庭教師、日本語学校［大阪］）	有
F4	20代	法学系	1 年 9 か月	5 年程度 [2)]（日本語塾［中国］）	無
M5	20代	語学系	1 年	5 年 10 か月（大学日本語専攻、日本語学校［東京］）	有

3.2. 談話情報

対話者に関しては、自身にとって方言を使って話すことが自然であると感じられる相手を、インフォーマント自身に選んでもらった。そのため、結果的に対話者には、日本語母語話者と非母語話者の両方が含まれることになった。自然談話収録調査では、話題を設定せずに、インフォーマントとそれぞれの対話者との自然な日本語会話を対面で 60 分ほど収録した。談話収録の途中、スマートフォンで何かを調べることや、二人で一緒に短い動画を見ることなどには特に制限を加えないこととした。自然な会話であることを確保するために、各談話の冒頭部分の 2 ～ 3 分ほどカットとした。談話情報は次の表 2 に示すとおりである。談話参加者の T はインフォーマントの談話相手を表し、例えば T1 は F1 の談話相手である。T2、T3、T4、T5 は関西出身であり、また、T1 は日本語母語話者ではないが、談話の中で関西方言を使用していた。

表 2　談話情報

談話	談話参加者	談話相手の出身・性別	参加者間の関係	調査年月日	調査場所	文字化時間
D ①	F1 － T1	韓国・女性	友人	2023/07/11	教室（対面）	60 分 28 秒
D ②	F2 － T2	日本（関西）・男性	恋人	2023/7/17	自宅（対面）	61 分 17 秒
D ③	F3 － T3	日本（関西）・女性	友人	2023/8/19	公園、カフェ（対面）	60 分 3 秒
D ④	F4 － T4	日本（関西）・男性	友人	2024/2/20	教室（対面）	61 分 46 秒
D ⑤	M5 － T5	日本（関西）・女性	友人	2024/3/15	教室（対面）	60 分 49 秒

談話を収録した後、面接調査を実施した。面接調査において、インフォーマントのフェイス情報の聞き取りを行ってから、母方言の使用状況と意識、日本語学習の経験、関西方言の接触経験、関西方言に対する意識、使用状況を踏まえて個別の方言項目に対する意識などについて尋ねた。なお、面接調査は、筆者とインフォーマントにとって最も自然に話し、意思疎通ができる中国語で行った。

4. 分析の観点

最初に、本稿で留学生の語彙項目の使用に注目する理由を述べる。まず、上林（2020）では、語彙・文法項目はアクセントよりは、話者の意識に上りやすく、操作しやすい項目であるとされている。したがって、留学生たちの方言使用の意識も探るには、語彙項目と文法項目が適切な項目であるといえる。

また、殷（2023）では、関西における中国人留学生が関西方言として認識しているもの、及びその意味を正しく理解しているものに、語彙項目が大半を占めている。そのため、文法項目

と語彙項目の使用において、留学生が異なる使用状況を示す可能性があると考えられる。このような認知度も理解度も比較的高い関西方言の語彙項目は、留学生にとって習得しやすく、実際に多用されると予測される。したがって、本稿では、特に語彙項目の使用状況に注目し、関西における中国人留学生の方言使用を分析したい。文法項目の使用状況に関する分析は稿を改めたい。

続いて分析方法について述べる。まず本稿では、上林(2020)に倣い、関西方言由来の形式を「方言形」、標準語や東京方言由来の形式を「非方言形」と称する。「非方言形」という用語を使用するのは、関西方言の形式とバリエーション関係のあるものの全てを一括で示したいためである。また、本稿における「方言形」と「非方言形」の区別は、インフォーマント自身が関西方言として認識しているか否かに関わらず、筆者が当該形式を関西方言由来であると判断したか否かに基づいて行ったものである。方言形をカタカナで表記し、非方言形をひらがなで表記する。分析の手順としては、各インフォーマントの発話データから語彙の方言形項目及びそれに対応する非方言形項目を抽出し、それぞれの使用回数を集計した。ただし、インフォーマント自身や他者の会話からの引用[3)]、及び言い淀み[4)]は使用回数のカウントから除外した。ここでいう引用とは自身または談話相手が発した言葉をそのまま繰り返した場合を指す。このような用例を除外した理由は、それがインフォーマント本人による自発的な使用ではないと考えられるためである。また、言い淀みを除外した理由としては、使用に不慣れな場合や言葉を探す過程で単語が繰り返し使用されるような使用は意図的かつ意味のあるものとは言い難いためである。このような理由から、これらの用例は使用回数に含めるべきではないと判断した。

また、収集したものが関西方言であるかの判断及びその用法については、飯豊・日野・佐藤編（1998)、高木（2006)、真田監修（2018)、増井（2018)、上林（2020）を参照して確認した。

5. 談話データからみる中国人留学生の方言語彙使用の実態

本節では談話データから見る中国人留学生の方言語彙使用の実態について分析を行う。まず5.1 節で留学生はどのような方言語彙を使用しているのかについての調査結果を示す。次に、5.2 節で談話データをもとに留学生の方言語彙使用に見られる特徴について分析を行う。

5.1. 留学生の使用する方言語彙

本節では、中国人留学生の方言語彙使用の実態について分析を行う。また、インフォーマントの談話データには、今回の分析・考察対象とした「方言語彙」に含めていない関西方言の断

定辞ヤ、否定疑問形式ヤン、終助詞ワ・デなどの使用も観察されたため、以下で提示する例文はこれらの形式が含まれる場合がある。

集計した結果、インフォーマントの談話に見られる方言語彙と、それとバリエーション関係にある非方言形は、10 対 20 語があった。それぞれ「メッチャ / すごい（すごく）」、「ホンマ / 本当」、「アカン / だめ」、「エエ / いい」、「オル / いる」、「ヨー / よく」、「オモロイ / 面白い」、「シンドイ / 疲れた」「チャウ / 違う」、「ギョーサン / たくさん」である。これらの語の共通点としては、すべて対になる非方言形をもつ形式であることが挙げられる。留学生たちが、最初に学んだ標準語形をベースに、これと対になる方言形を積極的に取り込んでいることが示唆されている。

その中に、「メッチャ」は、1980 年代後半に大阪市内で使用され出してそして関西一円に拡散し（岸江 2018a）、そのあと首都圏の若者に取り込まれたのちに全国に拡散した（森 2018）ものである。また「メッチャ」と対になる語として「とても / とっても」も挙げられるが、インフォーマントの発話にその使用が見られなかったため、「すごい / すごく」のみを扱った。また、「アカン」を使った禁止表現と義務表現がそれぞれ 1 例しか見られないため、本稿では「アカンおよび『アカン』を使った定型表現」とまとめて提示し、表 3 に「アカン」と簡略的に表記する。

上林（2020）における関西出身若年層 3 名全員に使用されている関西方言の語彙は、「メッチャ」、「アカン」、「ホンマ」、「エエ」、「オル」、「ヨー」、「チャウ」の 7 つである。本稿のインフーマントが使用している関西方言の語彙は関西出身の若年層が使用するものとほぼ一致していることが確認できる。このことから、留学生が方言を使用する背景には、関西出身の若年層との接触が影響していることが示唆されるといえる。しかし、留学生の方言語彙の使い方は完全に関西出身の若年層と一致しているわけではない。このような留学生の方言語彙の使用特徴を 5.2 節で詳述する。

5.2. 留学生の方言語彙使用の特徴

前節であげた 10 対の語の全体的な使用状況を、使用者数の多い語の対及び使用する異なり語数が多いインフォーマント順に表 3 に一覧にして示す。

表３　関西方言の語彙の使用状況

	語彙	F3	M5	F2	F1	F4	使用者数
①	メッチャ	2	8	28	45	6	5
	すごい/すごく	28	-	3	2	-	
②	アカン	5	3	1	1	-	4
	だめ	3	-	8	1	-	
③	ホンマ	5	-	3	1	-	3
	本当	12	1	22	2	2	
④	エエ	1	9	3	-	-	3
	いい	54	24	4	16	8	
⑤	オル	7	3	7	-	-	3
	いる	-	1	2	1	-	
⑥	ヨー	2	-	3	-	-	2
	よく	4	-	5	-	-	
⑦	オモロイ	-	3	-	3	-	2
	面白い	2	1	-	30	3	
⑧	シンドイ	2	-	1	-	-	2
	疲れた	-	-	1	-	-	
⑨	チャウ	-	1	-	-	-	1
	違う	15	6	2	4	1	
⑩	ギョーサン	1	-	-	-	-	1
	たくさん	-	2	-	1	-	
異なり語数		8	6	6	4	1	

表３からは以下のことがわかる。

①語によって使用状況が異なること。使用順位は表３記載の通りであり、インフォーマントが使用している方言形を使用者数の多い順に並べると、「メッチャ」、「アカン」、「ホンマ」、「エエ」、「オル」、「ヨー」、「オモロイ」、「シンドイ」、「チャウ」、「ギョーサン」となる。この中でも「メッチャ」の使用は顕著であり、5 名のインフォーマント全員によって使用されている。しかし、殷（2023）では、中国人留学生にとって認知度の高い方言語彙として「オオキニ」、「ホンマ」、「アカン」、「チャウ」等が挙げられており、「メッチャ」の認知度はそれほど高くないことがわかる。同様に、使用数が比較的多い「エエ」や「オル」も関西方言として認識する度合いの高い方言語彙には含まれていない。これらの点から、方言語彙の使用数は、必ずしもその認知度と相関するわけではないことがわかる。留学生は「メッチャ」や「エエ」、「オル」などを関西方言と認識せず、関西地域での滞在中に自然に習得し、使用するようになった可能性が考えられる。すなわち、方言形の使用が必ずしも関西方言と認識しての使用ではない場合があるかもしれない。一方で、認知度が高い方言形「オオキニ」（殷 2023）は、談話では使用されておらず、それと対応する

非方言形「ありがとう」の使用が観察された。このことから、留学生が関西方言を認識していても、それが必ずしも談話での使用につながるわけではないことがわかる。関西方言だと認識していることだけが使用に繋がるわけではなく、他にも影響を与える要因が存在することが示唆される。このような方言語彙の使用に影響を与える要因について、次の 6 節で各インフォーマントの方言語彙の使用状況を踏まえて詳しく分析を行う。

②それぞれの方言項目にも、方言形と非方言形の使用率に違いがあること。話者や語によって、方言形が専用される（例えば M5、F4 の「メッチャ」の使用）、非方言形と方言形が併用されるが、方言形の方が多い（例えば F2、F1 の「メッチャ」の使用）、非方言形と方言形が併用されるが、非方言形の方が多い（例えば F3 の「メッチャ」の使用）といった多様なタイプに分かれているといえる。

上の②の実態をより明確に把握するために、次の表 4 を作成した。この表においては、方言形と非方言形が併用されることを示すセルを網掛けで示してある。この表 4 からは、以下のことがわかる。

③インフォーマント全員が方言語彙を使用しているものの、方言形のみを用いるのではなく、非方言形との併用がほとんどであること。つまり、個人差はあるものの、留学生たちは方言形を習得し、方言を話すことが自然に感じられる相手に対しても、必ずしも方言形のみを使用するわけではなく、語によっては方言形を専用する場合もあれば、方言形と非方言形を併用する場合もあるという使い方をしている。要するに、留学生たちが関西方言をカジュアルスタイルとして使用しているよりは、親しい人との会話において特定の要因で方言の使用へ切換えていることがあると考えられる。これが留学生における方言語彙使用の特徴の一つであるといえる。

表 4　方言形と非方言形使用の傾向

語彙	F3	M5	F2	F1	F4
メッチャ	○	●	◉	◉	●
アカン	◉	●	○	＝	－
ホンマ	○	＊	○	○	○
エエ	○	○	○	＊	○
オル	●	◉	◉	＊	－
ヨー	○	－	○	－	－
オモロイ	＊	◉	－	○	＊
シンドイ	●	－	＝	－	－
チャウ	＊	○	＊	＊	＊
ギョーサン	●	＊	－	＊	－

〈凡例〉●：方言形だけ使用される ◉：方言形の方が非方言形より多用される ○：非方言形のほうが方言形より多用される ＊：非方言形だけ使用される ＝：方言形と非方言形の使用回数は同数である -：使用例なし

また、表 3 と表 4 以外に、インフォーマントの実際の方言語彙使用の実態からは、次のことが明らかになった。

④肯定形では方言形を使用し、否定形では非方言形を使用するという肯否における非対称的な使用傾向が見られること。M5 は方言形である「オモロ」を 3 回使用する一方で、否定形では非方言形の「面白くない」を使用している。以下に、M5 の「オモロ」（例（1））と「面白い」の使用例（例（2））を示す。例文において、注目すべき方言形の使用箇所に下線、非方言形に波線を引いており、文脈を理解するうえで必要な情報があれば【 】に示す。また、談話データの聞き取れない部分は＃で示す。

（1）【M5 は休みに西安（中国の都市）に行ったことについて話している】

T5：なるほどな、めっちゃ楽しかったんやん。

M5：オモロ。

（2）【M5 が次の休みに小樽へ行く予定となった理由について話している】

M5：私もこの前もずっと、なんか小樽に行きたくて、でもなんか一人で行くならなんか、うん、面白くないというか、意味がないって思って、なんか、この、なんか恋人ができたら一緒に初めて小樽に行くってずっと思った。

上記の例が示すように、M5 は例（1）では方言形の「オモロ」を使用しているが、例（2）では、非方言形の「面白くない」を使用している。

また、F2 の「オル」の使用においても同様の傾向が見られた。F2 は「オル」を 7 回使用し、否定形においては「いない」を 2 回使用している。例は限られているが、このような傾向から、留学生が方言形の否定形をまだ習得していない、または使い慣れていないため、肯定形のみで方言形を使用している可能性があると考えられる。

⑤留学生の方言語彙の使用に中間言語的な使用がある。中間言語的な使用が見られるのは M5 の「オモロイ」の使用である。その使用例を次の（3）で示す。

（3）【M5 が彼女との交際のきっかけについて話している】

M5：まあそれもなんかオモ、オモロなことがあって、私がその時が西安に旅行して、で、そして、あの人もこのなんかあ、その時かな、私と一度なんかかり、あ、私西安に行ったって、そう、そっちに聞いて、ま、そっちに行って。

このように、留学生が習得した方言語彙を必ずしも正確に使用できるわけではないことがわかる。

6. 留学生の方言語彙使用の要因

5節の表3と表4からわかるように、留学生の方言語彙の使用には、個人差がある。話者別の使用異なり語数を見ると、F3は最も多く、10語のうちの8つを使用しており、次にM5、F2は同じく6つを使用しており、F1は4つ、F4は1つしか使用していない。

5節で述べたように、留学生の方言語彙の使用は顕著な個人差が示されている。しかし、3.2で提示した滞在期間、日本語学習歴、学習形態、母国での方言使用の有無などの留学生の背景情報は彼らの方言使用との関係性が見られていないことをここで述べておきたい。例えば、F3は使用する方言語彙のバリエーションが最も豊富であり（表3を参照）、方言形の使用が非方言形のそれより多い語の使用が最も多い（表4を参照）が、F3は5名の中で、関西での滞在期間が3番目に長く、日本語学習歴も最も長いわけではない。他のインフォーマントにおいても、関西での滞在期間や日本語の学習歴と比例しての方言使用状況が観察されていない。F4の方言形の使用が少ないことは、一見して母国で方言を使用していないことと関連があるように思われる。しかし、F4に尋ねたところ、母国の方言に対しては抵抗感を抱いている一方で、関西方言に対しては抵抗感がなく、むしろポジティブな態度を持っていることがわかった。このように、関西での滞在期間などの各インフォーマントの背景情報で説明できない使用状況があるようである。

また、話者によって使用状況が異なるだけでなく、語によっての違いも表4から読みとれる。例えば、F4は関西方言の語彙の使用が少ないが、「メッチャ」を専用している。（F4の「メッチャ」に関する詳細な分析は6.5節で扱う。）このように、個人の状況と各語の使用状況を合わせてみる必要があると考えられる。

そこで、本節では、各インフォーマントの方言語彙の使用の特徴を分析する上で、面接調査の結果を踏まえてその要因についてインフォーマントごとに考察を行う。以下6.1節～6.5節で5名のインフォーマントの方言使用の特徴とその要因について個別に分析を行う。続いて、6.6節で5名の留学生の方言語彙使用の特徴とその要因をまとめる。

6.1. F3の場合

まず、F3の方言語彙の使用状況を次の図1に示す。

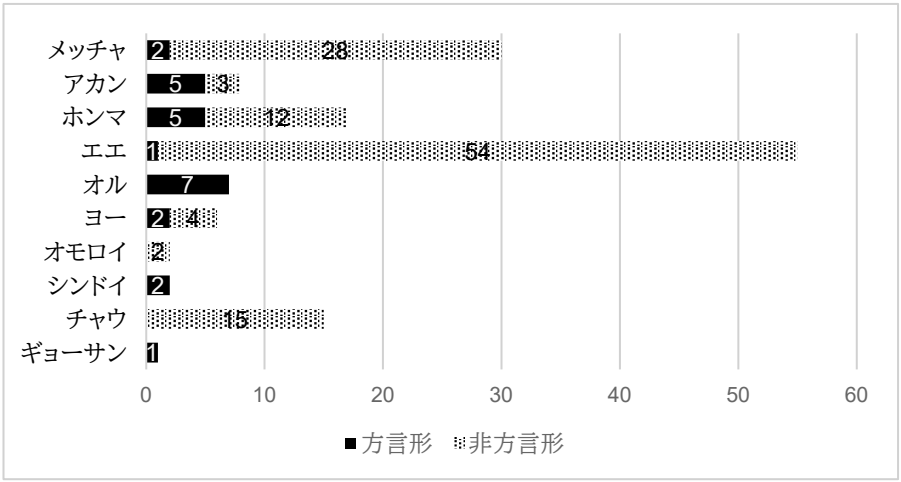


図 1　F3 の方言語彙の使用

F3 は使用する方言語彙のバラエティが最も豊富である（10 つの中で 8 つを使用））だけでなく、方言形の方が多く使用される語の使用もある（具体的には「アカン」、「オル」、「シンドイ」、「ギョーサン」という 4 つである）。また、F3 は大阪市内では高年層に使用が限られる「ギョーサン」（岸江 2018b）も使用しており、関西方言を積極的に取り入れ、できる限り多様な方言形式を使用する傾向が窺える。

このような方言語彙使用の特徴は、F3 が関西方言を自身と大阪とのつながりを表現する手段として積極的に使用していることと関連していると考えられる。F3 は大阪で 1 年半日本語学校に通った後、福岡の大学に入学したが、福岡滞在中も積極的に関西方言を話した。理由として、大阪が好きで、自分が「大阪からきた」というアイデンティティを強く持ち、それを強調したいという思いがあるためである。このような大阪への強い志向が F3 の方言使用に大きく影響を及ぼしていると考えられる。

6.2. M5 の場合

まず、M5 の方言語彙の使用状況を次の図 2 に示す。

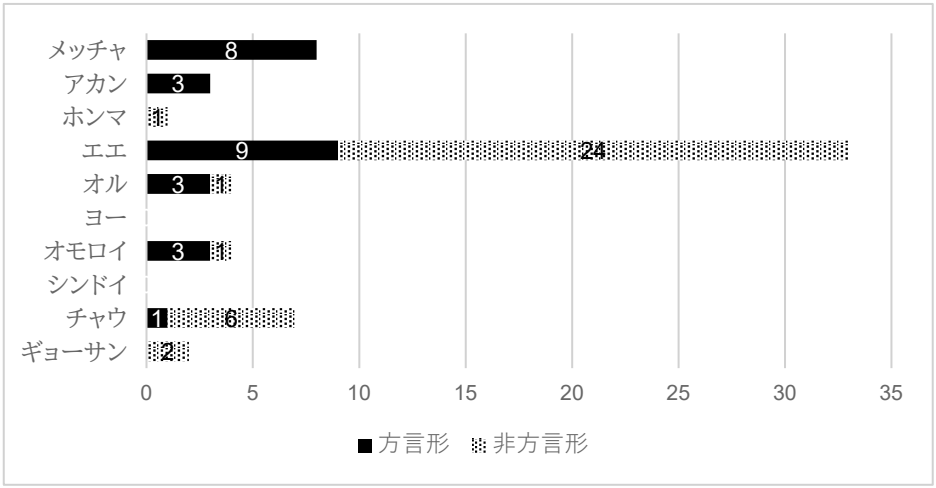


図 2　M5 の方言語彙の使用

M5 は F3 に続いて、使用する方言語彙のバラエティが比較的に多く（10 つの中で 6 つを使用）、方言形の使用が非方言形のそれより多い語の使用が 2 番目に多い人である。M5 は日本にきて最初の半年間は東京にある日本語学校に通った。その後大阪にある大学院に入学し、現在に至る。東京が賑やかすぎで好きではないが、大阪の方は故郷に似ており、ゆったりとしてリラックスした雰囲気であり、人間もフレンドリーであるという。それに伴って、「冷たい（M5 のことばより）」標準語と異なり、関西方言に爽快（中国語で行った面接では「爽朗」「豪迈」）なイメージを持っている。加えて、中国で日本語を学んだ際に、標準語しか学んでおらず、関西に来て方言を学べるのが興味深くて楽しいという。このように、M5 の方言語彙の使用は関西という土地に対するプラスの評価に影響されていると考えられる。

また、図 2 からわかるように、M5 の関西語彙の使用特徴としては、「メッチャ」を専用することが挙げられる。面接調査から、M5 は大学で日本語学を専攻しているためか、「メッチャ」が関西方言由来であり、現在全国に広がっているということを認識している。しかし、M5 は「メッチャ」を方言として使用しているのではなく、カジュアルスタイルにおける言い方として使用しているという。

6.3.　F2 の場合

まず、F2 の方言語彙の使用状況を次の図 3 に示す。

F2 の使用する方言語彙は M5 と同様に 6 つであり、5 名のインフォーマントの中で 2 番目に多い。また、方言形の使用が非方言形を上回る語として「メッチャ」と「オル」が挙げられる。

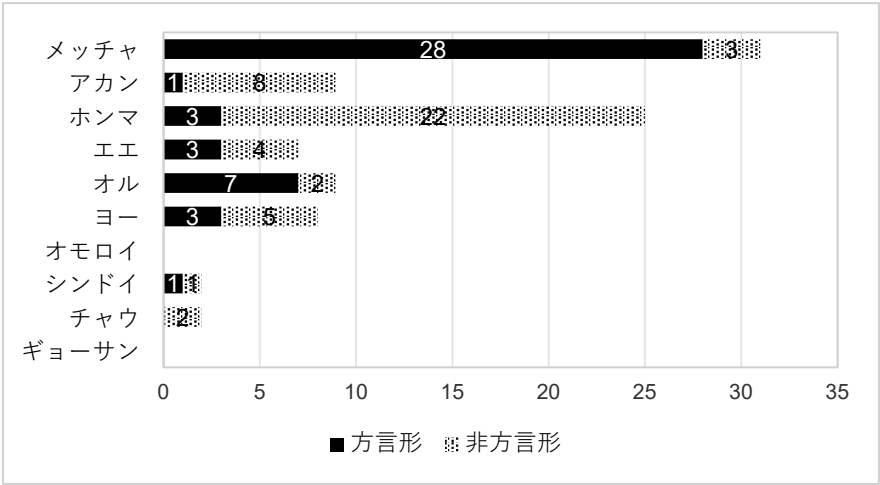


図 3　F2 の方言語彙の使用

まず、「メッチャ」に関しては、F2 はそれを関西方言として認識していないようである。

次に、「オル」に関して、F2 は「オル」を関西方言と認識しながらも、それと対応する非方言形である「いる」と異なり、「オル」には「存在している」ことを強調するニュアンスが含まれていると内省している。以下に F2 が「オル」を使用した例を挙げる。

（4）【T2 が冗談で 2 ～ 3 歳の子供や猫が市の財政政策を立案できると話している】

F2：20 歳でもわかんないわ。

T2：そうやな。

F2：たまに 60 歳でもわかんない人ってオルわ。

この例では、F2 が「オル」を使用し、60 歳になっても財政を理解できない人がいるということを提示し、T2 の子供と猫が財政が理解できるという発話に驚きや不思議さを含ませている。また、「オル」と「やん（か）」を組み合わせた「オルやん（か）」の使用例も複数見られる。次の例（5）（6）を参照されたい。

（5）【F2 が映画「エスター」の続編における映画スタッフの創作意図が分かりやすいと話している】

F2：本当に全然面白くないし、あと普通にさ、なんかめっちゃくちゃ、なんか、あの、映画を見ながらなんか映画スタッフの気持ちがわかるような気がすると思いません？

T2：あ。エスターが年取ったすぎで。

F2：えっと違うんです。なんか映画を作るスタッフオルやん。

T2：はいはいはい。

F2：多分そういうなんかちょっと 1 と一緒やったらつまんないなっと思って。

T2：あ。

F2：ちょっとどんでん返し入れたいって言う、そのメッチャ感じるな。

（6）【F2 がいとこが入院したことを話している。】

F2：そう、もう気絶してて、もう＃しててみたいな感じやったやんか、で、旦那さんオルやんか。

T2：うん。

F2：涙一滴も泣かなかったんですよ。

例（5）（6）に見られるように、「オル」は確認要求的表現の「やん」と共に使用されている。例（5）では、映画制作に関わるスタッフが映画にどんでん返しなどを入れようとしていることもあって映画が面白くないことを話している。例（6）では、いとこの夫がいとこが入院した様子を見て涙を流さなかったという驚きのことを話している。どちらの例でも、「オル」を使うことで、そのような人物の存在と、その人物が驚きや不思議な行動を取ったことが強調されている。

それに対して、5.2 節で述べたように、F2 による「いる」の使用は 2 回のみであり、いずれも「いない」の使用である。またそれに関して、留学生の方言語彙の使用に肯定形では方言形を使用し、否定形では非方言形を使用するという肯否における非対称的な使用傾向が見られることを述べた。そのため、談話データからは、F2 が「いる」の使用に関して「オル」に比べて存在を強調するニュアンスが含まれないことを明確に指摘することはできない。しかし、「オル」の使用については F2 が述べたように、強調を表す場面で多く使用されていることが確認されている。

このように、F2 の「オル」の使用は、標準語では表現しきれない意味合いを強調するために方言語彙を用いている点が特徴的である。つまり、留学生が特定のニュアンスを伝える手段として方言語彙を意図的に活用する場合があることが示唆される。

6.4. F1 の場合

まず、F1 の方言語彙の使用状況を次の図 4 に示す。

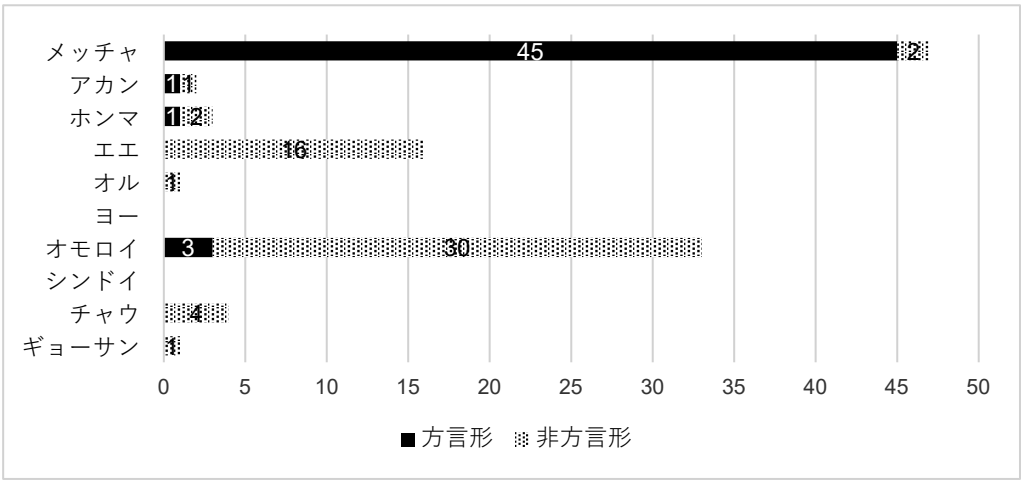


図 4　F1 の方言語彙の使用

F1 は 5 名のインフォーマントの中で最も長く関西に滞在しており、かつ日本語学習歴も最も長い。しかし、使用する方言形のバラエティや方言形の使用率が最も高いわけではない。

図 4 からわかるように、F1 の語彙使用の特徴として注目されるのは、方言形「メッチャ」を頻繁に使用する一方で、非方言形の「すごい / すごく」とも併用している点である。F1 自身は「メッチャ」と「すごい / すごく」の違いについて、「メッチャ」の方が強調の度合いが強いと述べている。

実際の談話データにおいて、F1 は特に自分の好きなアイドルの動画を T1 に見せる際に「メッチャ」を多用している。F1 の「メッチャ」の使用例として、27 回にわたり「メッチャ面白い」、「メッチャおもろい」、「メッチャうける」、「メッチャ好き」という表現が見られた。さらに「メッチャ人気」、「メッチャ有名」、「メッチャいい」といった表現も頻繁に用いられている。このように、F1 は主に自分の個人的な評価を強調する場面で、「メッチャ」を多く使用している。以下に F1 の「メッチャ」の使用例を示す。

（7）【F1 は T1 に自分の好きなアイドルが出演したバラエティ番組を見せている。】

F1：なんか笑うからな、メッチャおもろい。

（8）【F1 は好きな韓国アイドルの年末舞台について話している】

F1：ていう、タイトル曲、そのタイトル曲の年末舞台を見て、あの、＃（韓国語）したので。

T1：あ、年末舞台で。

F1：メッチャよかった。

F1：めっちゃくちゃよかった。

F1：このアルバムメッチャ好き。

一方、「すごく」を使用した例は以下の通りである。

(9)【F1 は韓国の男性が女性に自分のことを「お兄さん」と呼ばせたいことが嫌だと感じることについて話している。】

F1：え、なんか聞いた話しなんやけど、こう、韓国の男性が他の女性に自分のことを＃（韓国語：お兄さん）って呼ばせるのがすごく嫌。

T1：あ。

F1：すごく、気持ち悪いとか。

これらの例からわかるように、「すごく」は「メッチャ」と比べて、F1 が他者の意見や事実を述べる際に使われる傾向がある。つまり、「メッチャ」は個人的な感情や評価を強く表現する際に用いられ、一方で「すごく」は客観的な視点から他者の考えを説明する場面で使い分けられている。また、上記の例から「メッチャ」はプラス評価、「すごく」はマイナス評価と結びついて使われているように見えるが、ここで例を挙げることを省いたが、談話データにおいてマイナス評価の「メッチャ」の使用も観察された。

6.5. F4 の場合

まず、F4 の方言語彙の使用状況を次の図 5 に示す。

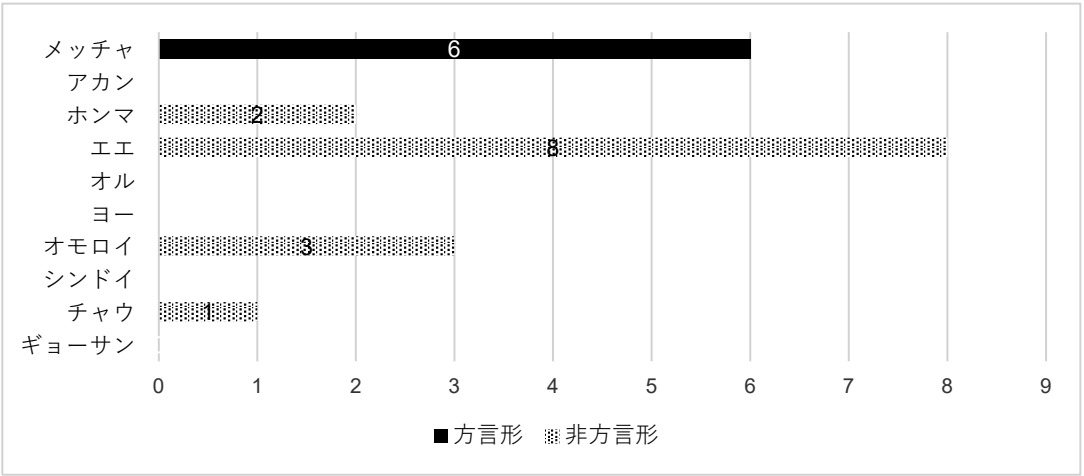


図 5　F4 の方言語彙の使用

図 5 からわかるように、F4 は使用する方言形の異なり語数が最も少なく、「メッチャ」しか

使用していない。しかし、F4 は「メッチャ」を専用しており、それに対応する非方言形を使用していない。

F4 は中国では方言ではなく中国語の標準語しか使用していないが、関西方言には抵抗感がないという。特に好きな関西出身のアイドルの影響を受け、関西方言には「かわいい」というイメージを持っており、使用したいという気持ちを持っている。また、F4 は日本語能力試験に合格したが、中国で断続的に日本語の塾に通った際も、日本に留学した後も、日本語を話す機会が少なかった。調査時点までに 5 年程度日本語を学んでいても、他のインフォーマントのような頻度で日本語を勉強し、使用しているわけではないといえる。F4 は日本に来て日本語を話す機会が少ないという問題を解消するために、地域の日本語教室に通い始めた。そこでは毎週関西出身のボランティアと日本語会話の練習を行なっている。しかし、F4 によれば、練習の大半はボランティアの話を聞くことが中心であり、自ら積極的に発話する機会が少ないという。そこで、F4 の方言語彙使用の少なさは、その発話機会の頻度と大きく関係していると推測される。

また、「メッチャ」の専用に関しては、F4 に「メッチャ」の他の言い方を尋ねた際に、書き言葉である「非常に」が挙げられた。このことから、F4 に「メッチャ」に相当する非方言形のバリアントを持っていないことがわかる。言い換えると、「メッチャ」は F4 にとって話し言葉 / カジュアルスタイルの唯一のバリアントであるといえる。この点から、F4 の「メッチャ」の使用は関西方言として認識して使用されているわけではないと考えられる。それにも関わらず F4 が自身を「関西方言を話している」と認識しているのは、文法項目において方言形を使用していることがあるからと考えられる。このことから、中国人留学生が関西方言の語彙に対して比較的高い認知度と理解度を持っている（殷 2023）にも関わらず、実際の使用において、文法項目でしか関西方言と認識しての方言形の使用が現れない場合があることがわかる。F4 の文法項目における関西方言使用の状況については別稿にて詳述することとする。

上林（2020）は「メッチャ」が現在、首都圏においても俗語的な表現として浸透しつつあり、かつ、その浸透率が高いことを指摘している。「メッチャ」を専用している F4 が「メッチャ」に相当する非方言形を知らないことが「メッチャ」の普及度を裏付けているといえる。これは、「メッチャ」が全国的に浸透しているため、F4 が「メッチャ」をカジュアルスタイルにおける言い方として習得したことが示されている。

以上を踏まえ、F4 にとって、関西方言の使用は、カジュアルスタイルのバリアントを持っていない（「非常に」しか知らない）ため、関西地域に留学し、関西方言由来の語をカジュアルスタイルとして日本語のレパートリーを豊富にしたといえる。

6.6. 5名の留学生の方言語彙使用の要因のまとめ

以上の 6.1 ～ 6.5 節において、インフォーマントの方言語彙の使用特徴とその要因を談話調査及び面接調査の結果を照らし合わせて確認した。本節で述べたように、インフォーマント全員が自ら関西方言を使用しているという自覚を持っているものの、彼らの関西に対する評価や関西への志向の強さなどの要素が、方言語彙の使用に影響を与えている。さらに、各個人が特定の方言形に対してもつ個別な認識（例えば強調のニュアンスが入っているかどうかなど）が方言形と非方言形の使い分けに影響を及ぼしていることもある。

また、「メッチャ」の全国に広がる俗語的な表現としての性質が本稿で対象とした中国人留学生たちが「メッチャ」を多く使用する大きな理由として考えられる。例えば、F2、F3 は「メッチャ」が関西方言であると知っておらず、また、「メッチャ」を専用している M5、F1 は「メッチャ」が関西方言由来形式であることを知りつつ、「メッチャ」をカジュアルスタイルにおける言い方として使用している。要するに、留学生は「メッチャ」を関西方言と認識しているか否かを問わず、「メッチャ」の使用が関西方言と認識した上で選択的に使用されているわけではない。このように、留学生の方言使用は関西方言と認識しての使用と関西方言と認識しないでの使用に分けられている。

以上を踏まえると、留学生の方言語彙の使用実態に影響を及ぼす要因は、まず「関西方言と認識しての方言使用」と「関西方言と認識しないでの方言使用」の 2 つのパターンに分類でき、前者はさらに、表 5 のように分類できる。

表 5　留学生の方言語彙の使用実態に影響を及ぼす要因

関西方言と認識しての方言使用	自身と大阪とのつながりを表現する手段（F3）
	関西という土地に対するプラスの評価（M5）
	標準語にはない意味（主に強調）を表すものとしての使用（F2 のオル、F1 のメッチャ）
関西方言と認識しないでの方言使用	方言との認識のないままに、周囲からのインプットによって取り入れられる（F3 のメッチャ、F2 のメッチャ）

7. 留学生の方言語彙の使用に関する考察

本節では、5 節と 6 節で分析を行った留学生の方言語彙使用の特徴と留学生の方言語彙使用の要因の結果を踏まえて、2.4 で提示したリサーチクエスチョンの中の（c）留学生の方言使用はどのようなものとして捉えることができるかについて考察を行う。

まず、5 節で述べたように、留学生は習得した方言形を専用するのでなく、方言形と非方言形を併用している。留学生たちは全体的に、方言が自然に話せる親しい関係にある相手に対しても、習得した方言形を専用することは少なく、標準語では表現できない意味を表すためなどに基づいて方言形と非方言形の間で使い分けを行っている。このことから、関西における中国人留学生の方言語彙の使用は、体系的なものではなく、部分的に方言要素を取り入れた形で行われていることがわかる。具体的に言うと、標準語を基盤としながら、適宜方言要素を挿入する形で使用しているといえる。この点は、日本語学習者の日本語使用に方言形式の使用が観察されると指摘している従来の研究（ナカミズ 1996、樋下 2002、チュー 2021））が観察していることと一致していると言える。

また、6 節で指摘したように、方言語彙を標準語にはない意味を表すものとしての使用からも、留学生の方言使用は、単なるカジュアルスタイルとしてではなく、語によって特定の意味合いが入っていることがわかる。例えばF2の「オル」のように、非方言形に比べて方言形に強調のニュアンスが含まれているといった認識に基づいて行われている可能性もある。これは、小林（2004）が指摘している骨組みが標準語で、ほんのすこし感情系の言語要素の方言を交える使い方と類似していると考えられる。また、F4 のように、関西方言に対して「かわいい」というイメージを持っているため使用したい気持ちがあることは、田中（2011：10）が提唱した表現のバリエーションを広げたり、楽しんだりすることが主目的である「おもちゃ的な使用」と共通するところもあると考えられる。いずれにしても、留学生の方言使用は、スタイルとしての方言使用ではなく、語・表現レベルの個別の方言形の使用であることがわかる。

また、留学生による方言語彙の使用が必ずしも関西方言と認識しての使用ではない。従来の研究（例えば渋谷（1992））は、日本に在住する外国人が標準語を身につけた上で地域語としての方言を生活上の必要から付加的に習得するという見方に立っている。しかし、本稿では、F4 は「メッチャ」のみ専用しており、その理由は、F4 は「メッチャ」と相当する非方言形のバリアントを持っておらず、関西に留学してから、「メッチャ」を習得したためである。このように、留学生は一部の標準語の表現（ここでは「すごい / すごく」）を十分に把握しないまま、関西地域で滞在する中で、一部の方言項目（ここでは「メッチャ」）をカジュアルスタイルそのものとして自然に習得し、使用するケースが見られることが明らかになった（6.5 節を参照）。

要するに、特定の項目において、留学生にとって方言形がカジュアルスタイルそのものであり、相当する非方言形のバリアントを持っていないこともある。関西地域に滞在する日本語学習者の方言習得は必ずしも同じことを言うための 2 つのセットを身につける（渋谷 1992）わけではない場合もあることがわかる。

8. まとめと今後の課題

本稿では、中国人留学生による関西方言語彙の使用について分析を行った。本稿で明らかになったことを、2.4 節のリサーチクエスチョンと対応させて整理すると、以下の通りである。

a) 全体的に留学生が使用する方言語彙を使用者数の多い順に並べると、「メッチャ」、「アカン」、「ホンマ」、「エエ」、「オル」、「ヨー」、「オモロイ」、「シンドイ」、「チャウ」、「ギョーサン」が挙げられる。特に「メッチャ」は関西方言を起源としながらで全国的に広がる俗語的な形式であるため、5 名のインフォーマント全員が使用している点が顕著である。（5.1 節）

b) 留学生の方言語彙の使用には、関西方言と認識した上での使用と、認識しないでの使用という 2 パターンが存在する。関西方言と認識した上で使用する場合、その使用に影響を及ぼす要因として、自身と大阪とのつながりを表現する手段としての使用、関西という土地に対するプラスの評価、標準語では表現できない意味を表すための使用が挙げられる。（6 節）

c) 留学生の方言使用は包括的なスタイルとしてではなく、カジュアルスタイルにおいて部分的に方言要素を取り入れる形である。（7 節）

今後の課題として、留学生による文法項目における方言の使用状況との対照的な分析が挙げられる。また、「第二方言習得」という観点から、他の地域から関西に移住した日本語母語話者の方言使用の状況を照らし合わせ、さらに比較分析を行うことで新たな知見が得られることが期待される。

注

1）調査日まで。

2）インフォーマントが正確な年数を覚えていないため、「5 年程度」と記している。

3）引用の例としては、例えば、次の例における「ホンデ」の使用は F3 が T3 の発話をそのまま繰り返したものである。このような使用は、インフォーマント自身による自発的な使用とはみなせないため、使用回数のカウントには含めていない。

T3:：ホンデ？

F3：ホンデ、じゃ、どういうつもり？

4）言い淀みの例としては、例えば、次の例にある「すごい」が 2 回連続で使用されているが、1 回の使用とカウントしている。

F3：わかってないていうか、わか、なんかすごい、なんかすごい、なんていうか、なんて言えばいいの、あれを、どう伝えばいいかな、あの、ちょっと、ちょっと若いけど、なんかすごい純正、ピュア。

参考文献

飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編（1998）『講座方言学 7―近畿地方の方言― 第 2 版』国書刊行会 .

殷琦（2023）「関西在住中国人留学生が接触する方言」『阪大社会言語学研究ノート』19:134-145、大阪大学大学院人文学研究科社会言語学研究室 .

上林葵（2020）『関西若年層のカジュアル談話におけるスタイルの運用―首都圏移住者を事例として―』2019（令和元）年度大阪大学大学院博士学位申請論文 .

岸江信介（2018a）「関西弁の規範と多様性」真田信治監修『関西弁事典』、pp.240-243、ひつじ書房 .

岸江信介（2018b）「関西弁の世代差」真田信治監修『関西弁事典』、pp.224-226、ひつじ書房 .

小林隆（2004）「アクセサリーとしての現代方言」『社会言語科学』7-1：105-107、社会言語科学会.

真田信治監修（2018）『関西弁事典』ひつじ書房 .

渋谷勝己（1992）「社会言語学的にみた日本語学習者の方言能力」『日本語教育』76：31-41、日本語教育学会 .

高木千恵（2006）『関西若年層の話しことばにみる言語変化の諸相』（『阪大日本語研究』別冊 2）、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座 .

田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代 ニセ関西弁から龍馬語まで』、p10、岩波書店 .

田原広史（2006）「近畿における方言と共通語の使い分け意識の特徴―方言中心社会の提唱―」中井精一・ダニエルロング・松田謙次郎編『日本のフィールド言語学 新たな学の創造にむけた富山からの提言』、pp.174-188、富山：桂書房 .

チュー、アンバー（2021）「日本におけるシンガポール人留学生の多言語混用」『阪大社会言語学研究ノート』17：64-87、大阪大学大学院人文学研究科社会言語学研究室 .

増井金典（2018）『関西ことば辞典』ミネルヴァ書房 .

森勇太（2018）「関西弁の歴史」真田信治監修『関西弁事典』、pp.2-8、ひつじ書房 .

ナカミズ、エレン（1996）「日本在住ブラジル人労働者における社会的ネットワークと日本語の使用」『阪大日本語研究』8：57-71、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座 .

樋下綾（2002）「中国語母語話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』5：114-130、大阪大学大学院人文学研究科社会言語学研究室 .

ロング、ダニエル（1991）「日本語教育における『方言教育』の問題点」『日本語教育』76：42-54、日本語教育学会 .

（博士後期課程学生）

（2024 年 8 月 19 日受付）
（2024 年 12 月 23 日掲載決定）